

霊場の側から“お接待”

被災地神戸で「お砂踏み」

四国霊場会青年部が実施

四国八十八ヶ所霊場寺院所属の青年僧侶で組織する四国霊場会青年部（長崎勝教会長）では、昨年十二月二十一日午前九時から午後三時まで、神戸市須磨区の真言宗須磨寺派大本山須磨寺（小池義人管長）を会場に「阪神大震災復興祈願 四国八十八ヶ所霊場ご本尊お砂踏み」を執り行なった。当日は“終い弘法”で須磨寺に参詣した老若男女ら約三千人が詰めかけ、会場入り口には長い列ができた。

会場には震災復興支援の募金箱を数ヶ所に設置し、この日の賽銭や志納金など合わせて約百万円が震災復興義援金として神戸新聞社を通じて寄付された。

同青年会では大震災直後にも義援金を送ったが、震災から一年を経過しようとしている今、「物質面での支援はもちろんのことだが、心の面での支援活動こそ求められているのではないか」と考え、「特に兵庫県はじめ関西地域は古くから弘法大師信仰の篤い土地柄で、四国巡礼者も多い。巡拝のできる状態にない今こそ、四国霊場の側から“お接待”の精神をもって被災地に行こう」と、神戸での「お砂踏み」を実施したと長崎会長は話していた。

午前八時二十分から伊東聖純四国霊場会長の導師のもと、小池須磨寺管長、四国霊場の役員らが随喜、職衆には青年僧侶が黒衣で出仕して開白法要が厳修された。

法要のあと参拝者たちは本坊入り口で塗香・洒水で身を清めて入場。会場に奉掲された各霊場の「お砂踏み本尊掛け軸」に参拝、ご詠歌を唱えながら砂を踏み、第一番霊山寺から順番に結願の大窪寺までの八十八ヶ寺を巡拝した。

出口では参拝記念に特製の「あいたいな、お大師様に」と赤文字を染め抜いた手ぬぐいと「お遍路さん」のパンフレットを全員に配布した。

同青年部は四国八十八ヶ所霊場会の要請を受けて平成六年一月、霊場寺院所属の青年僧侶を対象に結成された団体で、会員数は現在五十三人。

須磨寺書院を会場に行なわれた「お砂踏み」【写真は省略】